

沿革 | 畜産研究所

昭和 27 年度	東根市一本木に総合種畜場開設（既存の最上種畜場並びに置賜種畜場は廃止）
昭和 32 年度	家畜人工授精施設が完成し、県内一円に精液の供給を開始
昭和 41 年度	豚産肉能力検定施設が完成。山形県畜産試験場（8 係制）となる
昭和 47 年度	東根市大字沼沢地内に 444,113 m ² を買収、放牧試験地を設置 豚産肉能力検定業務を中小家畜分場に移す
昭和 50 年度	肉用牛間接法産肉能力検定事業を開始する
昭和 51 年度	中小家畜分場が養豚試験場として独立（養豚部門は養豚試験場、養鶏部門は畜産試験場所管となる）。 優良乳用種雄牛後代検定推進事業を開始する
昭和 60 年度	受精卵移植による子牛を県内で初めて生産（計 5 頭、うち 2 頭は双子）
昭和 62 年度	主管課が畜産課となる（旧主管課：農業技術課）
昭和 63 年度	体外受精卵移植による子牛生産に成功。 畜産試験場移転地が新庄市（県立農業大学校周辺）に決定
平成 2 年度	高品質肉用鶏（仮称：山畜鶏 1 号）の作出に成功
平成 4 年度	山畜鶏 1 号の正式名称が「出羽路どり」と命名される。 畜産試験場移転地（新庄市鳥越）の土地基盤整備完了。 副場長 2 名、研究主幹 2 名体制になる
平成 5 年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ 3 頭導入。 畜産試験場新築工事が始まる
平成 6 年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ 3 頭導入
平成 7 年度	畜産試験場の完成（新庄市）及び移転。畜産研修所廃止。1 課 1 室 4 部体制となり、技術開発企画室が企画情報室となる。 県産種雄牛第 1 号「貴平 3」誕生
平成 9 年度	山形県農業研究研修センター畜産研究部（1 室 4 科制）となり、副総長（畜産担当）職及び部長職が新設された。同時に、企画情報室が情報管理室となる。クローン牛誕生（4 月、11 月）。 主管課が農業技術課となる（旧主管課：畜産課）
平成 11 年度	草地研究科が草地環境科となる
平成 13 年度	情報管理室が企画情報室となる。 県産種雄牛「安鶴 165」「安秀 165」誕生
平成 14 年度	企画情報室廃止となり、4 科制になる。 県産種雄牛「北景茂」誕生
平成 16 年度	県産種雄牛「平安菊」誕生。 赤笹シャモを交配した新しい肉用鶏「やまがた地鶏」誕生
平成 17 年度	山形県農業総合研究センター畜産試験場となり、総務課、家畜改良科、飼養管理科、草地環境科の体制となる
平成 19 年度	県産種雄牛「徳次郎」、「平忠勝」誕生
平成 21 年度	県産種雄牛「景勝 21」誕生
平成 23 年度	総務課、家畜改良部、飼養管理部、草地環境部の体制となる
平成 24 年度	増体改良型の新しい「やまがた地鶏」誕生

平成 26 年度	県産種雄牛「貴福久」、「満開 1」誕生
平成 29 年度	県産種雄牛「幸花久」、「神安平」誕生 第 11 回全国和牛能力共進会若雄の部で県産候補種雄牛「翼」 号が優等賞獲得
令和元年度	県産種雄牛「福福照」誕生 高いゲノミック評価が期待される輸入受精卵導入 「YLES ソングバード トパーズ スー ET」誕生 O P U（生体卵子吸引技術）器機導入
令和 2 年度	山形県農業総合研究センター畜産研究所と改称 県産種雄牛「冬景 2 1」、「美結喜」誕生 ゲノミック評価済み輸入受精卵産子 「YLES ザズル Mホープ ET」など 4 頭誕生
令和 3 年度	県産種雄牛「平忠勝」令和 3 年 1 月 3 日老衰のため死亡 県産種雄牛「翼満開」誕生。 輸入受精卵産子由来受精卵を県内酪農家等へ販売開始。この中 の第 1 号として白鷹町内の酪農家において 3 月 22 日雌牛が 誕生し、翌 23 日に第 2 号の雌子牛が誕生。
令和 4 年度	県産種雄牛「幸紀陸」、「美勝喜」誕生。 県内酪農家等へ販売したプレミアム受精卵から 7 頭の雌子牛が 誕生。 乳用牛 2 頭が優秀検定雌牛受賞（生涯乳量 5 万キロ以上且つ体 型得点 85 点以上）。 和牛における OPU-IVF 技術を活用した高能力繁殖雌牛の生産 実証を開始。 第 12 回全国和牛能力共進会（鹿児島）若雄の部で県産候補種 雄牛「幸彦星」号が優等賞獲得。
令和 5 年度	県産種雄牛「福秀 1 6 5」誕生。 県内酪農家等へ販売したプレミアム受精卵由来の乳用雌子牛の うち 1 頭がゲノミック評価で日本一になる。
令和 6 年度	県産種雄牛「丸藤 3」誕生。